KATSUMI NAGASHIMA

“chute de neige”

写真を撮る時、僕は何も考えず無心になって歩く、そして途中で軽く深呼吸をする。その場の空気を吸い、その空気から何かを感じようと心を落ち着かせる、何かを感じ何かに心が引き留められるまで何も撮らない。カメラを手に持ち、ひたすら歩く。興味が有る無いに関係無く、頭では無く、心で何かを感じた、その時一枚の写真を撮る。ファインダーを覗き、フォーカスを合わせ、露出を決めて、静かにシャッターを切る、そしてゆっくりと歩きながらフィルムを巻き上げる。そしてまた歩き続ける、次に心に感じた何かを撮る、そしてまた歩き出す。一つの場面で一枚しか撮らない、そして次の場面でまた一枚。撮った映像は記憶は残るけど、現像するまで結果は分からない。失敗しているかも知れない、その緊張感がとても心地よい、その連続の中で一つの作品が生まれてくる。コンタクトを眺めてセレクトしている時、隣のカットも同時に見える。その感じのままプリントしたいと思い、フィルムの天地まで含めて仕上げてみた。静止した画像の中から前後の動を感じとれて面白くなってきた。セレクトしたメインの絵柄と少しだけ取り入れた選ばなかった隣の絵柄の対比が相乗効果で今迄とは違った一つの新たな作品に仕上がった。作品は、2010年12月、記録的な大寒波に見舞われてパリが 23 年ぶりの大雪とのニュースをテレビで見た、空港も閉鎖状態らしい。パリの雪景色は未だ撮る機会が無い、パリ在住時に雪は降ったが積もる事は無かった。何も考えず 2 台のライカとレンズ 2 本、モノクロフィルムを持って急遽パリに向かった。人気の無い空港、観光客も殆どいない街中、ひたすら歩いて感じたまま写真を撮る事が出来た。
2007 年に「散歩の途中で ...」シリーズとして、パリの日常を撮った「もう一つのパリ」という作品を発表した。chute de neige 作品はその続編です。降雪の中、穏やかな光の陰影、湿った空気、僕が心で何かを感じて撮り下ろした作品です。

永嶋勝美

#727

#711

#721

KATSUMI NAGASHIMA / 永嶋勝美

1953 年 2 月東京都出身
ディザイナー、アートディレクターを経て、1980 年写真家に転向、ファッション・静物を主とした広告写真を手掛ける。1982 年より海外を歩きまわり作品を撮り始める。1989 年より一時期パリ郊外に住み、パリ市内やフランス各地を「散歩の途中で…」をテーマに撮影を始める。1992 年より写真作家活動に専念しオリジナルプリントの制作と個展やグループ展に積極的に参加し始め、作品集カレンダーの制作も手掛ける。また、同時期よりデジタルフォトを本格的に始める。1996 年より DGSM Print の研究に取り組み 2011 年にその写真技法を公式に公開し、写真雑誌等への執筆、APIS 等の国際シンポジウムや学会などで講演を行い、ワークショップ等を始めとする普及活動を開始する。現在は写真作家活動を主軸に、DGSM Print のプロデュース、クリエイティブディレクター、テクニカルアドバイザー、プロ写真家向けセミナー＆講習会の講師、トークショー、各種講演、各種メディアのゲスト出演、等。
また、日本を代表する写真家が毎回 40 名以上参加している「monochrome 展」を主催し今年で 15 回目の開催。「DGSM Print 7 人の写真家展」等も主催している。

Gallery E&M nishiazabu

ギャラリー イー・エム 西麻布
2017 年 6 月 13 日（火）～7 月 1 日（土）
12:00～18:00（日･月曜日休館）入場無料
東京都港区西麻布 4-17-10
03-3407-5075

■渋谷から
渋谷駅東口バスターミナル
都バス［都 01］
２停留所目　南青山７丁目下車

■広尾から
地下鉄日比谷線広尾駅下車
西麻布口より徒歩 8 分